西国第二番　紀三井山

御本尊／十一面観世音菩薩　開基／為光上人

救世観音宗（総本山）金剛宝寺

「バリアフリーこそ、この寺の命」

住職　前田泰道

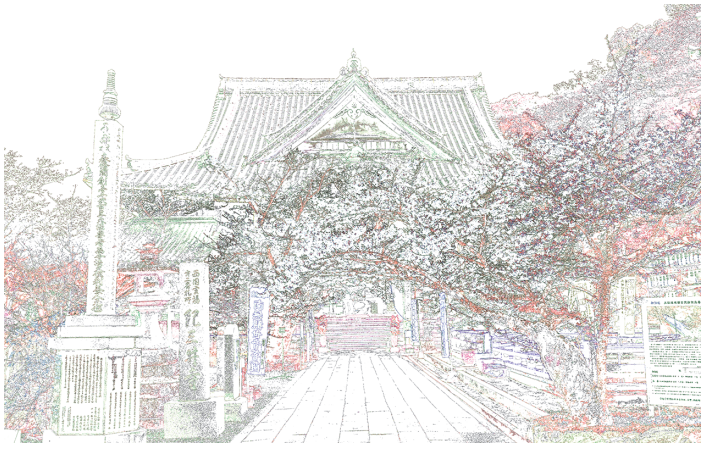
ご縁を頂き、この文章を通じて、貴方とお会いすることが出来ました。御仏縁を拝謝申し上げます。

このお寺は、正式には紀三井山金剛宝寺護国院と申しますが、皆さん「紀三井寺」と呼んで下さいます。紀三井寺は、西暦７７０（宝亀元）年に、唐僧・為光上人によって開基されました。その頃、海を渡って唐国から日本に来ることは危険でした。命を賭して仏法を伝えたい、という草創者の強い意志を思うたびに、重いバトンを今生で受け継いだ自らの至らなさに恥じ入るばかりです。

令和２（２０２０）年に、開創１２５０年の大きな節目を迎えた紀三井寺ですが、その年は、コロナ禍に翻弄された最初の年で、大きな法要は行えず、５０年に一度の秘仏御本尊御開帳だけを静かに執り行いました。

それでも、先代住職の遷化を受けて、よちよち歩きの住職になったばかりの私は、次の５０年を見据える必要に迫られ、「バリアフリー」をスローガンに、境内整備に取り組むことにしました。

足の悪い人の御来山を阻んでいた急な石段、そのバリアを払うケーブルやエベーターの設置（参詣のバリアフリー）、境内からの折角の絶景を阻害していた建物や樹木の撤去（景観のバリアフリー）、本堂周りの壁を撤去し、仏像収蔵庫への通路を開削（伝道のバリアフリー）、以上三つのバリアフリーです。

思えば、紀三井寺の草創者・為光上人も、海というバリア、言葉が通じないというバリアをものともせず、異国に仏法を伝えた「バリアフリー和尚」です。

皆様どうか、この寺代々の究極の目標「バリアフリー」、つまり、観音様への信仰と、釈迦様の教えを、今はまだ御縁の無い大勢の人々の心にお届けするという事業にご協力下さいます様、伏してお願い申し上げます。